



企業と学生が協働し、企業における
環境に関する取組の新たな展開を大研究!
あいちの「人づくり」プロジェクト!



かがやけ★ あいちサステイナ研究所



かがやけ★あいちサステイナ研究所とは…

未来のあいちの担い手となる学生が、グローバルな視点を持って継続的にエコアクションを実施することができるよう、愛知県が立ち上げたプロジェクトです。パートナー企業から提示された環境面での取組に関する課題に対し、研究員である学生が現場での調査や企業担当者とのディスカッションを実施します。解決策を企業側に提案し、その成果を広くPRします。

パートナー企業



かがやけ★
あいちサステイナ研究所

【所長】愛知県知事 大村秀章 【研究員】愛知を担う学生



活動を
広く発信!

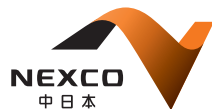
イベント・大学等での発表

研究所公式ブログ



twitter

2019年度
パートナー企業
(五十音順)



？
課題

人生100年時代を見据えた 幸せな「わが家☆わが街」を検討せよ

積水ハウスでは、人生で最も長い時間を過ごす「わが家☆わが街」について、「幸せ」をキーワードにした住まいづくりを考えている。そこで、健康・福祉・環境・豊かさ・持続性などに配慮しながら、皆が考える「幸せ」を盛り込んだ「世界一幸せな場所」になる「わが家」について検討する。

！
解決策

「3S」 Share Sumiwaterumachi Sekipay “シェア 住み渡るまち 積pay”

解決策の方向性
(考え方)

100年後を見据えた循環型社会のまち。積水ハウスの手掛ける中高級の家だからできる、誰にでも幸せな住まいをおすすめする、新しい住まい方を検討した。

具体的な展開案

1

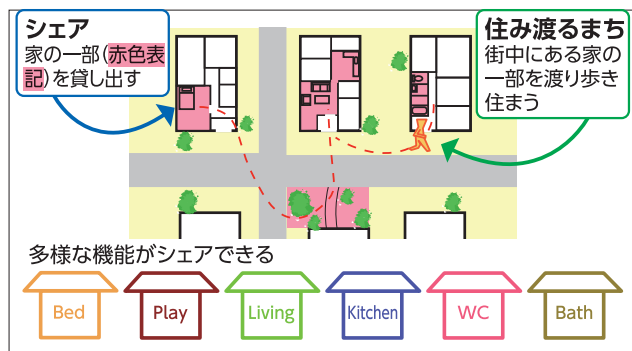
シェア

積水ハウスにお住まいの家主の家族の変化によって、余っている部屋を学生や一人暮らしなど、その部屋を必要とする人に貸し出す。皆でシェアすることで有効利用する。

2

住み渡るまち

シェアすることにより、必要とする目的に合わせ、まち全体を移動しながら生活する(住み渡る)。これにより、皆のニーズを満たした豊かな生活の実現と健康増進、新たなコミュニティの構築及びまちの活性化につながる。



3

積pay

第4次産業革命でIoTが発達し、情報社会が今後より安全になることを見据えた、積水ハウスのオリジナル通貨「積pay」の導入を提案。シェアしたい場所を借りるときの精算だけでなく、ペットの散歩や買い物代行といった家主からの依頼や、地域PRのCMをみることで、地域でのボランティア活動の実施で積payを貯めることもできる。

このように、積payを核として、地域経済を循環させることができる。



持続可能な
社会への
ポイント

- ▶ 空間もエネルギーもシェアして皆で効率的に使い、使用量の削減と物を大切にすることを意識の向上をもたらす。
- ▶ シェア及びボランティア活動が人の移動・交流を活性化させ、移動による健康増進とコミュニティの構築によって皆が「幸せ」に住み続けられるまちを実現することができる。



研究員
からの
メッセージ

企業環境活動研究を通して、改めて私たちは日常を幸せな環境の中で過ごしていると実感しました。積水ハウスの環境保全活動に私たちは大きな刺激を受け、以前よりも環境配慮を意識して活動に取り組むことが出来ました。今回の提案が「幸せ」あふれる「わが家☆わが街」の実現につながれば良いと思います。

チーム・積水ハウス

リーダー
★名古屋経済大学 3年 大城ちひろ
名城大学 4年 西尾菜歩子
名古屋商科大学 2年 福嶋 天音
名古屋工業大学大学院 1年
モスケラ・ステファニー

ファシリテーター

岐阜市立女子短期大学 生活デザイン科
助教 白井 直之氏



？
課題

2030年における高速道路の 環境に配慮した取組を検討せよ

日本の大動脈「東名高速道路」が全線開通し今年で50周年を迎えた。半世紀以上、高速道路では「エコロード(自然環境に配慮した道)づくり」をはじめ、様々な環境取組を実施してきた。SDGsやパリ協定の目標年度である2030年、社会情勢の変化も見据えながら、高速道路が環境と共存していくためにはどのような取組が考えられるか検討する。

！
解決策

2,132kmの持続可能性 ～道路が地域生態系を守り、脱炭素社会をリードする～

※高速道路の距離は、
2019年4月時点のデータです。

解決策の方向性
(考え方)

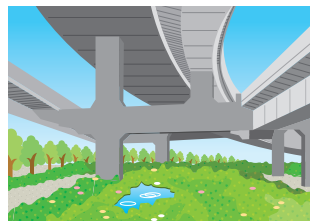
2030年、そしてその先の未来を見据え、NEXCO中日本はどのような環境への取組をしていくべきなのかを、地域環境と脱炭素社会の2つの観点から検討した。

具体的な展開案

地域住民と一緒に生態系を守る高速道路の実現

継続した取組を行い、自然環境や生きものを守る高速道路を増やす

- ①高架下に地域の植物を利用したビオトープをつくり、生きものが住む場所をつなげる。
- ②「ビオトープを学び、考え、作りあげる!」取組を定期開催し、生きものについて学びながら地域全体でビオトープを管理する。



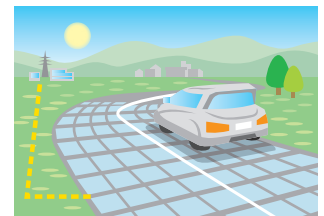
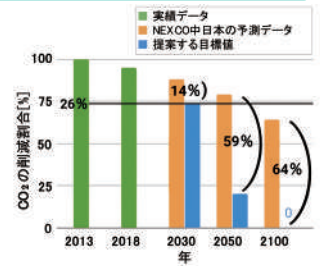
人や地域、生き物をつなぐ
次世代高速道路へ



脱炭素型高速道路の実現

2030年までに 高速道路全体の CO₂排出量を26%削減

- ①高速道路の路面に太陽光パネルを敷き詰め、再生可能エネルギーを大量導入。
- ②電気自動車への自動充電に活用。



再生エネルギーの活用で
脱炭素型高速道路へ



みちまるくん

NEXCO中日本の高速道路 2,132km
長距離ネットワークの活用で
生物多様性・脱炭素社会をリードする!

持続可能な
社会への
ポイント

- ▶ 幅広い地域生態系を守り、地域住民と一緒に陸・海の豊かさを守ることができる。
- ▶ CO₂排出量を削減し、クリーンなエネルギーを活用できる。
- ▶ NEXCO中日本は高速道路をつくる・つかう責任を全うし、企業の持続可能性を高められる。



研究員
からの
メッセージ

関東一関西間をつなぐ高速道路は、私たちの自由な移動を支えてくれています。これから先も地域と地域、人と人をつなぐ高速道路でありつづけるために、私たちの提案が、環境に優しい高速道路への起爆剤になり、持続可能な社会の発展に貢献し続ける高速道路・NEXCO中日本になることを願っています。

チーム・NEXCO

★名古屋工業大学 4年 堤 優菜
人間環境大学 3年 上野 慶子
日本福祉大学 2年 木股 寛斗
愛知学院大学 2年 竹腰 奈央

ファシリテーター

株式会社フルハシ環境総合研究所
代表取締役所長 浅井 豊司氏



?
課題

ららぽーとを拠点とした お客様参加型の環境イベントを検討せよ

三井不動産グループの商業施設では「お客様ひとりひとりのエコライフをサポートしたい」「未来を担う子どもたちの地球や自然を愛するところの成長を応援したい」という想いで、家族や仲間と楽しくエコ活動等を体験できる場ときっかけを提供している。みなとアクルスの中核を担い、地域交流・発信の場となるららぽーとを拠点としたお客様参加型の環境イベントを検討する。

!
解決策

みんなでここから、始めよう 「Minato (皆と&港) プロジェクト」



**解決策の方向性
 (考え方)**

人と人、地域との交流の拠点となり、持続可能なコミュニティ形成の促進、若年層への新しいエコライフ提案の発信拠点となるようなイベント等を検討した。

具体的な展開案

みんなと、楽しくサスティナブル

1

憩いの場「らら緑地」を創ろう

～グループみんなと～

ビオトープを眺める憩いの場「らら緑地」を活用する企画案の動画を募集。みんなで、生物多様性についての関心が持てる場所を作り上げる。



2

17色のSDGsピザづくり

～地域みんなと～

港区の食材やテナントのフードロスになりそうな食材などを活用したカラフルなピザづくり体験。地産地消やSDGs、フードロスへの理解を促し従業員、地域住民、お客様みんなの持続可能なコミュニティ形成を促進。



3

ライトアップメモリーツリー

～お客さまみんなと～

人力発電で、ツリーを点灯させるイベントを実施。みんなで協力して、エネルギーを作る大変さを実感し、エネルギー問題を身近な問題に。また、写真撮影参加者数でギネスに挑戦することで話題作りにもなる。



イベント+α 未来の環境配慮型ショッピングセンター

～一過性で終わるのではなく、継続的な取組を促す仕組み～

AR(拡張現実)とは、現実の世界とデジタル情報を重ね合わせることができる最新技術である。この技術を活用し、ショッピングを通して、環境配慮行動への効果を見える化し、アクションを起こす動機付けにする。

AR・ショッピング
 ARを用いて、より環境に良い商品を選ぶ
 環境配慮行動の習慣化をサポート



**持続可能な
 社会への
 ポイント**

- ▶「楽しさ、面白さ、かっこよさ」から人々の興味を引き、参加者の普段の生活に環境配慮意識を取り入れ、行動することで持続可能な社会の実現につながることを認識させる。
- ▶イベントやARショッピングを通じて、お客様、従業員、地域の人みんなで「誰一人取り残さないコミュニティ」を形成し、ららぽーとを発信拠点の場とする。



**研究員
 からの
 メッセージ**

私たちが考えたコンセプト「Minato(皆と&港)で創る」をもとにイベントを検討しました。環境に配慮した最新の施設「ららぽーと名古屋みなとアクルス」を拠点にこれらのイベントを実施し、気軽にできる環境配慮行動が、持続可能な社会に大きく貢献することを、多くの方に知っていただきたいです。

チーム・ららぽーと

リーダー
 ★名古屋学院大学 3年 真田凌太郎
 南山大学 3年 伊藤 真衣
 愛知学院大学 2年 竹松奈津希
 東海学園大学 3年 水野 将希

ファシリテーター

フィットラボ 代表 松本イズミ氏



課題

事業者による多様な主体と連携協働した環境学習等の普及策を検討せよ

持続可能な社会を支える「行動できる人づくり」を推進するためには、各主体（産官学民）と連携した環境学習等の普及が重要と考える。トヨタ車体「ふれ愛パーク」では、深い学びを目指し各主体との連携・協働による人づくりを行っている。その一方で、世の中ではこの活動が浸透していないのが実態である。この活動を更に社会に普及させるための方策を検討する。

解決策

“=AIR”への参加で「環境活動を空気のように当たり前に！」

解決策の方向性（考え方）

環境活動に取り組む企業が全体の3割にとどまっている。そこで、中堅規模の企業が主体的に活動できるような仕組みづくりを検討した。

具体的な展開案

環境活動を空気のように当たり前にしたという思いから、学生が始める環境活動団体「=AIR」という仕組みを提案。

1 企画&運営

企業に代わって、興味、関心を抱いてもらえる、参加しやすいイベントを運営。環境活動はどこかマニアックな印象があるが、海や川の清掃活動、外来種の駆除、街のゴミ拾いなどに、BBQやクイズラリーなどを合わせて遊びの要素を取り入れることで、遊びに行く感覚で活動に参加してもらえるようになることを目指す。



2 広報活動(PR)

映像を用いた広報活動の支援。「なぜ、企業が環境活動に取り組むのか」このようなメッセージが伝わる短い動画を配信して企業の活動をPRする。

3 シェアサイトの運営

企業の環境活動をつなぐシェアサイトの運営。環境活動を行う学生の部活動やサークルなどが参加するほか、ここでは、別の企業や行政、学校の環境活動を広く紹介する。それらをつなぐ仕組みで、それぞれの強みを生かした質の高い環境活動の企画と実施が期待できる。

持続可能な社会へのポイント

- ▶ 興味・関心を引くイベント運営や、なぜ環境活動に取り組むのかが分かる映像による広報で、産官学民の誰もが参加できる活動の実施が可能になる。
- ▶ 企業の環境活動をつなぐシェアサイトの運営で企業で不足している、人材・時間の確保が可能になり、それぞれの強みを生かした環境活動が広がる。



研究者からのメッセージ

人材・時間不足や環境に対する危機感を持ってないことにより、なかなか環境活動が普及しない中、どうしたら誰もが参加しやすい環境活動が行えるかを考えてこの方策を検討しました。今回私たちが提案したような仕組みで、誰もが環境活動を「空気のように当たり前に行えるようになることを願っています。

チーム・トヨタ車体

- ★ 中部大学 3年 細川 泰誠
- 南山大学 2年 鬼頭 亜実
- 愛知県立大学 3年 杉本 夏音
- 中部大学 3年 中山 貴文

ファシリテーター

- アルト・ファシリテート代表 葛原 祐季氏



? 課題

「お茶で愛知を美しく。」 環境活動を広げる方策を検討せよ

伊藤園は「世界のティーカンパニー」を目指し、「人と自然が共生する社会づくり」に向け、瀬戸市の「海上の森」で間伐やお茶の木を育てる活動を行っている。昨年度はこの活動を地域全体に広げる方策を検討した。今年度は、販売店の協力も得て、より多くの消費者にこの活動を認知・理解してもらい、愛知県における活動を促進するための方策を検討する。

! 解決策

見て! 感じて! 参加して! 愛知の森の保全活動を広めよう!

解決策の方向性 (考え方)

伊藤園は「おーいお茶」の売上の一部を愛知県の森の保全活動に寄付している。この活動を多くの人に認知してもらい、協力を得るための具体的なPR方法について検討した。

具体的な展開案

1 売り場でのPR

ポスターによる広報

店内に森の整備に関するポスターを掲示。販売店の森林保全活動への意識向上と、広報への協力体制の強化を図る。販売店の協力を得て、より多くの消費者の森の保全活動の意義の理解につなげる。



2 売り場でのPR

「cha・cha・cha」の木の設置

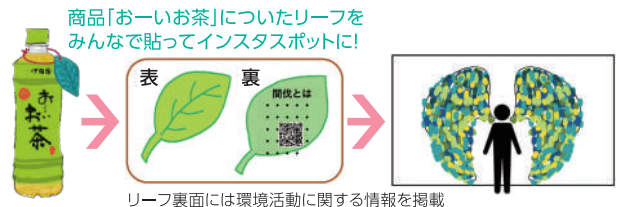
飲み物を取ると川のせせらぎや鳥の鳴き声が出てくる仕掛けをつけ、お茶が森とつながっていることを五感で意識してもらい、森の保全活動に関心をもってもらおう。



3 より多くの消費者にPR

環境イベントへの参加とインスタスポットの設置

愛知県内での環境イベントに出展し、県内の学生とのコラボ企画を実施。会場には森の保全への貢献度が視覚的に分かるインスタスポットを設置。主に若者層を対象に活動を広める。



4 より多くの消費者にPR

「1コマ for YOU」

伊藤園の環境活動に関する4コマ漫画を「おーいお茶」のラベルに掲載。4コマ目に入れるイラストの案を募集することで、老若男女問わず、広く活動を認知してもらう。



持続可能な社会へのポイント

- ▶ 森は水を生み出す大切な存在である。私たちにとって水が必要不可欠であるのと同様、お茶も水の恵みから作られている。そこで私たちは森への恩返しをする意味でもきれいな水を生み出す森を保全する必要がある。
- ▶ 提案により消費者が森の重要性を認識し、より多くの人の協力を得ることで、持続的な森の保全活動にもつながる。



研究者からのメッセージ

私たちは、「おーいお茶」を飲むことが愛知の森の保全につながっていることを、販売店や消費者の方に伝えたいという思いで提案を考えました。楽しみながら伊藤園の環境活動を知ってもらい、多くの方が環境に対する意識を高めてほしいと思います。

チーム・伊藤園

★星城大学 3年 外川 皓稀
名古屋工業大学 1年 杉山 弥優
愛知教育大学 3年 竹内 真紀
愛知大学 2年 山田 優見

ファシリテーター

ビオトープネットワーク中部
会長 長谷川明子氏



課題

「人にも動物にも環境にも優しい」 メニコンの施策を検討せよ

メニコン「Menicon」には「eco」が含まれている。そこでメニコンでは環境への取組を「環境宣言」として、地球の未来を見据えて「人にも動物にも環境にも優しい地球企業でありたい」と願い事業活動を行っている。社会から必要とされ、持続可能な社会に貢献するメニコンらしい施策を検討する。

解決策

災害時にも五感で「みえる喜び」を提供 “メル助セット”で被災者支援

解決策の方向性 (考え方)

メニコンは様々な事業を通じて環境問題に取り組んでいることが調査でわかった。近年災害が多発する現状を踏まえ、新たな視点での取組を考えた際のキーワードは「被災者支援」。メニコンの強みの一つである環境バイオ事業の技術を生かした取組について検討した。

具体的な展開案

1 人にも動物にも優しい“メル助セット”の開発

調査の結果、避難所では臭いや慣れない生活からのストレスがあり、人間だけでなくペットもストレスにより体調を崩すこともあることがわかった。

そこでメニコンが得意とする環境バイオ事業の技術を生かした“メル助セット”を開発。

- コーヒーやアロマの香りがするリラクソグッズ
- トイレや臭いの問題を解消する微生物由来の凝固剤・消臭剤
- ペットの健康を維持するサプリメント“メニワン”

これらをメニコンが提携するコンタクトレンズ販売店(約1700店舗)に備蓄することにより、各自治体の備蓄倉庫に負担をかけずに供給することができる。



2 周知のためのポスターを制作

消費者に「メル助セット」を周知すると同時に災害への備えをしてもらうため、以下の内容のポスターを制作。

〈コンセプト〉 ●メル助セットの使い方や中身を宣伝 ●防災・備蓄を促す ●災害という視点から環境問題について考えてもらう

ポスターを制作することにより『メル助セット』を周知するだけでなく、地球温暖化などの環境問題が原因となる災害について考えてもらうことで、より身近に環境問題を捉えてもらう。

持続可能な 社会への ポイント

【人に優しい】

- ・リラクソグッズで心身のケア。
- ・微生物由来の凝固剤・消臭剤で災害時でも衛生的で快適なトイレ。
- ・ストレス軽減で円滑にコミュニティを形成。

【動物に優しい】 【環境に優しい】

- ・サプリで健康を守り家族(ペット)と暮らし続けることができる。
- ・ポスターを通じて、災害という視点から環境問題について考え、行動するきっかけを提供。



研究者 からの メッセージ

企業訪問を通してメニコンはどんなことにも優しい会社だと思いました。今回の施策を通して人にも動物にも環境にも優しいサスティナブルな企業であるメニコンを、もっとたくさんの人に知ってもらいたいです。

チーム・メニコン

- ★ 南山大学 2年 渡辺理紗子
- 南山大学 3年 笠野 真由
- 日本福祉大学 3年 佐々木新太
- 中部大学 3年 本田 翼

ファシリテーター

NPO法人地域の未来・支援センター
河合 良太氏



? 課題

東レのSDGsの取組を 子どもたちに楽しく伝える授業を検討せよ

東レでは、SDGs達成に向け、素材メーカーとして革新技术・先端材料の提供等多くの取組を実施している。その一つとして東海工場では、子どもたちの環境への関心を高めることを主眼に、小学生向けに理科実験教室を実施している。「素材って何?」「何がSDGsへの取組につながっているの?」そんな子供たちの疑問に答える楽しい1日の授業内容を検討する。

! 解決策

ペットボトルを正しくリサイクルしたくなる! 実験も交えた楽しい授業

解決策の方向性 (考え方)

小学3・4年生を対象として、東レのSDGsの取組を子どもたちに楽しくわかりやすく伝えるだけでなく、その後、子どもたち自らのエコ活動につながるような授業内容を検討した。

具体的な展開案

目標とする授業

小学3・4年生対象に
45分授業

東レの技術が
生かされた取組

授業に楽しく
参加してほしい!

聞いた後に楽しく
活動してほしい!

授業の3本の柱

◎子どもたちに体験をふまえて授業に楽しく取り組んでもらう

◎東レ東海工場ならではのオリジナルな授業を伝えたい ◎捨てられたゴミがどうなるか、子どもたちに意識をもってもらう

これらを踏まえ、東レ東海工場で原料を製造している身近なペットボトルを題材に、リサイクルについて考えてもらう授業を企画した

授業の ポイント

- リサイクルされなかったプラスチックはどうなっているのか? 現状を知ってもらう
身近なペットボトルを題材に、海洋プラスチック問題や資源枯渇問題等を知ってもらい、正しいリサイクルにつなげる。
- 授業の中で実験を行い、体験することで記憶にとどめてもらう
プラスチックのリサイクルの仕組みを学べる楽しい実験を実施。

実践しました

11月7日 日進市相野山小学校学童 1・2年生

子どもたちは興味津々。実験時には前に集まって実験を見つめていた。



子どもたちへのアンケート結果

蓋やラベルを
外してリサイクル
している

はい 30%

効果を実感!

これから正しい
方法でリサイクル
しようと思う

はい 73%

今回の授業のことを家族やまわりの
人に話そうと思う

当てはまるに該当 90%

家族等への拡がりも期待!

アンケート結果から、低学年でも丁寧な解説や実験を交えることで、授業で伝えたいことを学んでくれたことがわかった。

持続可能な 社会への ポイント

- ▶子どもたちがペットボトルを例に身近な環境問題への関心を高めることで、明日からの環境配慮活動の実践につなげることができる。
- ▶様々な年代の子どもたちに環境授業を行い、啓発することで、東レの「つくる責任・つかう責任」を実践。



研究員 からの メッセージ

私たちは、子どもたちに楽しくSDGsを考えてもらいたいと思い、理科実験を検討しました。授業内容を考えることを通して、私たちもSDGsをより深く学びました。東レが製造する身近な素材、ペットボトルをツールに、子どもから大人まで「つかう責任」を考えてもらえるよう、広めていきたいです。

チーム・東レ

★愛知淑徳大学 3年 小久江美来
愛知工業大学 3年 杉浦 哲平
愛知教育大学 3年 佐藤優希奈
中部大学 3年 永田 悠真

ファシリテーター

愛知淑徳大学CCC
秋田有加里氏



? 課題

「地球の未来にかける保険・サービス」 を検討せよ

東京海上日動は、豊かで快適な社会生活と経済の発展を目指し、保険をはじめ、危険を未然防止するためのサービスや事故発生後のコンサルティング等様々な業界にソリューションを提供している。また、社会貢献活動としてマングローブ植林活動等も積極的に実施している。そこで、持続可能な社会の実現のために実行できる、同社ならではの保険・サービスを検討する。

! 解決策

「あるだけで世界を救おう!!」 ～保険による持続可能な社会づくり～

解決策の方向性 (考え方)

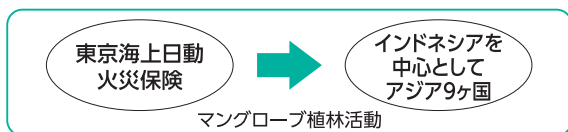
従来のマングローブ植林をさらに広がりある活動にするために、日本とインドネシアをつなぐ仕組みを検討した。

具体的な展開案

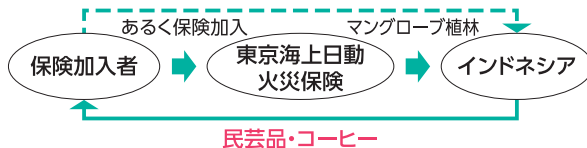
「Think globally act locally～あるだけで循環する社会づくり～」

あるく保険とは — あるだけで保険料の一部が戻ってくる、東京海上日動あんしん生命の健康増進型医療保険

(これまで)

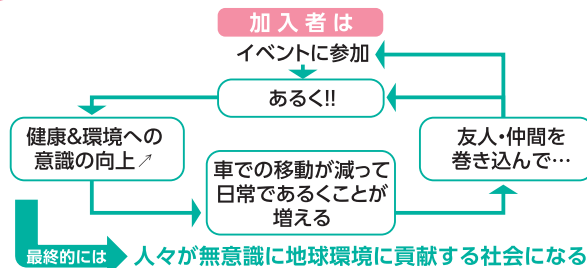
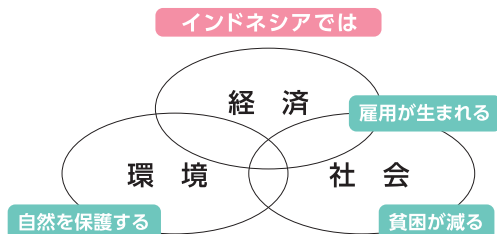


提案 現地と日本をつなぐ仕組みとして



マングローブ植林活動を、あるく保険のサービスの一部として展開。歩いた歩数に応じてポイントを得られ、加入者はそのポイントを使って植林活動に貢献できる他、インドネシアの民芸品などが購入できる。

それにより



起爆剤として

「みんなで歩いて世界を救おう!「ウォークラリーの開催」」

保険加入者以外も対象に本取組を広げることを目的としてウォークラリーを開催。参加者は「あるく保険」アプリをダウンロードして歩数を計測。イベント終了時に歩いた分のポイントを使い、その場で民芸品などと交換もしくはマングローブ植林活動に貢献できる。

持続可能な 社会への ポイント

- ▶ あるくことで健康への意識が高まるだけでなく、身近な移動が“自動車⇒あるく”に変わりCO₂削減につながる。
- ▶ インドネシアにおいて、植林活動や民芸品製作による経済活動の活発化の結果、雇用が生まれ、貧困が減り、森林伐採による自然破壊を防ぐ流れをつくる。
- ▶ ウォークラリーを通じて、地球環境について考える人々の輪が広がっていく。



研究者 からの メッセージ

年々自然災害が増加しているように、地球の災害リスクが高まっています。環境活動を行いこのリスクを下げることは、保険会社、そして地球の未来にとって、大切なことだといえます。今回の活動を通じてこれらを学び、私たちは保険会社が地球環境と密接に関わり合っていることに気づくことができました。この取組のような身近な活動が、地球規模の環境保全につながることを期待しています。

チーム・tokio marine

★愛知県立大学 3年 原口 純
東海学園大学 3年 酒井 玲奈
名古屋工業大学 3年 富田 竜矢
名古屋経済大学 3年 洞口真奈美

ファシリテーター

NPO法人アスクネット アドバイザー
白上 昌子氏



課題

花王商品を通じて、生活者の環境意識を高める啓発方法を検討せよ

花王は、“きれい”を満たすものづくりを通じて、人と地球の未来に貢献することを目指し、節水や節電に配慮した洗濯洗剤等、環境に配慮した様々な商品を展開している。これらの商品を使用することが地球環境の改善に貢献することを生活者に実感させることで、自主的な環境意識の高まりを促進することができる、店頭での啓発方法について検討する。

解決策

生活者の“気づき”から始める エコ啓発活動

解決策の方向性 (考え方)

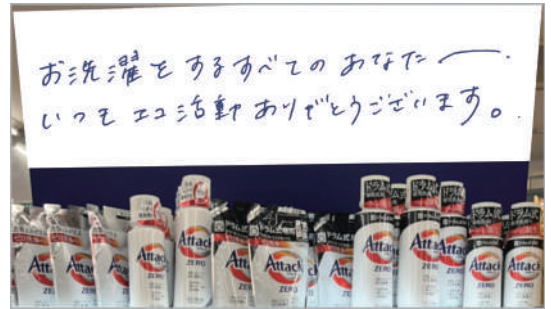
原材料から容器の廃棄までのすべての段階で環境に配慮している洗剤アタックZEROを例として、「製品を使用すること＝エコ」を認知させ、環境意識を啓発する方法を検討した。

具体的な展開案

解決策 1

「いつもエコ活動ありがとうございます」 ～意外性を活用した啓発の実施～

「いつもエコ活動ありがとうございます」という大きな看板をアタックZEROの売り場に設置。本製品を使うことがエコにつながっていること、使用している方には、すでにエコ活動をしているという意外性を感じさせ、注目してもらうきっかけをつくる。さらに、本製品の陳列棚にどうエコにつながっているのかを書いたポップを設置。“気づき”から環境意識を高めることにつなげる。



解決策 2

お洗濯体験会でエコも周知

地域イベントや環境イベントなど、協賛型のイベントに「アタックZEROでお悩みZERO!」というタイトルでお洗濯体験会として出店。お洗濯の悩みを聞くだけでなく、実際に本製品を使ってお洗濯をしてもらう。すすぎ1回でキレイになることなど、本製品を使用したときのエコポイントを伝え、地球環境の改善に結びつくことを実感してもらう。



解決策 3

SNSでの啓発

イベントでは実際の体験をすることでより環境意識を高めることができるが、拡散力が足りないためSNSでの啓発も行う。花王の本製品の公式アカウントを活用し、生活者からの洗濯の悩みへの回答の際、エコの話も盛り込んで発信。SNSの拡散力と手軽さで、より多くの生活者に環境意識を持ってもらうことが期待できる。

持続可能な 社会への ポイント

- ▶ 身近な「洗濯」を例として、環境配慮製品の使用がエコにつながることを生活者に分かりやすく伝えることで、生活者が当事者意識を持ち、環境意識も高まることが期待できる。
- ▶ 私達の生活の様々な場面で環境に配慮した花王製品が使用されていることから、身近な洗剤を起点に多様な場面で環境意識を高めることにつながる。



研究員 からの メッセージ

「エコ」と聞くと、生活に制限が掛かってしまうイメージがあります。しかしエコは生活の一部であり、決して特別な物ではないということの花王製品を通し伝えたいです。そこで、まずは私たちの生活に最も身近な「洗濯」から環境意識を持ってもらいたいと考えています。

チーム・Kao

★名古屋学芸大学 3年 江崎 佑真
 中部大学 3年 大石美菜子
 椋山女子学園大学 3年 平木 沙和
 名古屋工業大学 1年 王 維焯

ファシリテーター

le-puro 清水君代氏



? 課題

SDGs達成に向けた 未来の「環境配慮型パッケージ」を検討せよ

トッパンは、長年培ってきた印刷テクノロジーをパッケージ分野に生かし、地球温暖化防止や循環型社会形成のために、「サステナビリティ」「ダイバーシティ」を軸としたパッケージソリューションの開発・提供を行っている。皆様と共に持続可能な社会を実現することを目指し、SDGs達成に向けた未来の「環境配慮型パッケージ」を検討する。

! 解決策

楽しくなければエコじゃない! プラ削減とジェンダーフリーを両立したパッケージ

解決策の方向性 (考え方)

プラスチックごみ問題を解決するにあたり、リサイクルすればよいというのは幻想。リデュース、リユースを優先すべきである。また、多くの人を巻き込むには楽しさやデザイン性も重視すべきだと考えた。

具体的な展開案

タブレスナプキンで知らぬ間にエコ

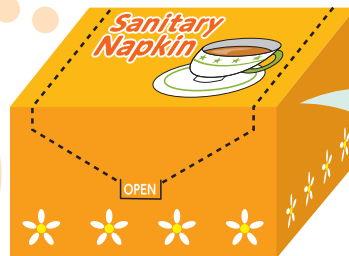
〈コンセプト〉

プラスチック削減かつ過剰包装をなくした、環境配慮型パッケージを考えた。生理とナプキンのタブーをなくし、パッケージでコミュニケーションが生まれることを狙った。

- ① 環境配慮型
- ② 女性が買やすい、頼みやすい
- ③ 男性も買やすい



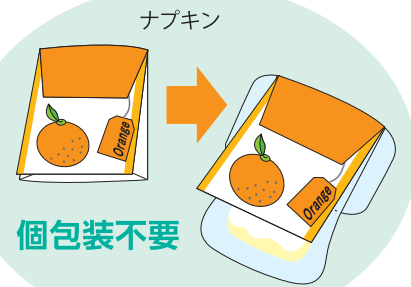
外装
・プラスチックから防水紙へ
・紙はFSC認定紙
・サニタリーボックスとしてリユースできる。



例えば、紅茶にみえるパッケージ

〈環境配慮要素〉

- ① ナプキン本体を包む個包装は、本体と一体化することで不要。
- ② ナプキンを入れている外装の素材を変更。
- ③ 外装をおしゃれにすることにより、ナプキンを人目から隠す必要がなくなり、販売時の黒袋も不要。



良い意味でナプキンらしくない外装で、
買う楽しさ使う楽しさが生まれる。
あたり前を見直して、タブーをなくそう。

持続可能な 社会への ポイント

- ▶ 環境:プラスチックごみを削減することによって、限られた資源を有効活用することができる。
- ▶ 社会:生理のタブーをなくし、男女ともに生きやすい社会が実現。
- ▶ 経済:リーディングカンパニーであるトッパンが率先して取り組むことでパッケージ業界に変革を促すことができる。さらに、消費者は商品を購入するだけで知らぬ間にエコ活動ができる。



研究者 からの メッセージ

環境配慮型パッケージは、とっつきやすいですが深めにくいテーマでもあり、やりがいがありました。さまざまな企業と連携しているトッパンだからこそ、消費者を巻き込み、SDGs達成に向けて働きかけていくことができると感じました。そう遠くない未来、あなたも知らぬ間にエコ活動をしているかもしれませんね。

チーム・TOPPAN

- ★ 愛知淑徳大学 3年 河村 友紀
- 金城学院大学 2年 植田 愛理
- 名古屋市立大学 2年 瀧本美実果
- 名城大学 2年 三輪久美子

ファシリテーター

「なごや環境大学」実行委員会事務局
丹羽 陽子氏





2019年度の研究所活動

6/30 開所式



企業、ファシリテーター、研究員全員で顔合わせ。今後の活動のキックオフ!

7/14 基礎講座①/地域環境活動の実践



生物多様性保全の講座を受講。トヨタ車体(株)が実施している外来種カメラ調査・駆除活動に参加。

7/21 基礎講座②



資源循環、地球温暖化対策の講座を受講。

8月～10月 企業環境活動研究



チームで企業を訪問。環境取組の現場調査、企業担当者とのディスカッションを実施。

11/3 中間発表会



研究成果を中間発表。発表内容をブラッシュアップ。

11/24
発表
練習会

12/15
成果
発表会

SDGs(持続可能な開発目標)とは、“2030年までに達成すべき17の目標”

「持続可能な開発目標(SDGs)」とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

愛知県は2019年7月に内閣府から「SDGs未来都市」に選定され、SDGsの取組を積極的に推進しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

